

パブリックコメントに基づく当初案からの変更点

人口ビジョン編

第2章 札幌市の人口

意見の概要	修正内容
「札幌市の人口増加数の推移」のグラフは、どのようにみればよいか。	<p>≪ P 7 ≫</p> <p>図表「札幌市の人口増加数の推移」に注釈を追記</p> <p>【注釈】各年 10 月 1 日を基準とした 5 年間の増加数である。</p>
「転入超過数の推移」、「転入者数及び転出者数の推移」の図表の掲載順について、本文の記載と合わないため、逆にした方がよい。	<p>≪ P 9 ≫</p> <p>「転入超過数の推移」と「転入者数及び転出者数の推移」の図表を入れ替え</p>
「総人口に与えてきた自然増減と社会増減の影響」の図表の数字(50、55、60…)について、数字が元号であることをわかるようにすべき。	<p>≪ P10 ≫</p> <p>図表内の数字に元号を追記</p>
「人口減少に対応するために札幌市において必要だと考える取組別割合」などの図表について、割合が高い順に並べた方が見やすい	<p>≪ P14、18 ≫</p> <p>回答割合が高い順に図表を変更</p>

第3章 札幌市の人口動態の考察

意見の概要	修正内容
合計特殊出生率を最新の数値である平成 26 年値に変更した方がよい。	<p>≪ P15 等 ≫</p> <p>【合計特殊出生率】</p> <p>平成 25 年 1.14</p> <p>↓</p> <p>平成 26 年 1.16</p> <p>※全国、東京都、北海道の数値も平成 26 年値に変更</p>

総合戦略編

計画書全体

意見の概要	修正内容
<p>合計特殊出生率と転出超過数の数値目標の根拠を分かりやすく伝えてほしい。</p>	<p>≪ P 29 ≫</p> <p>【数値目標】</p> <p>平成 42 年（2030 年）までに合計特殊出生率を 1.5 まで上昇させることを目指して、平成 31 年（2019 年）の数値目標を設定します。</p> <p>↓</p> <p>平成 42 年（2030 年）までに合計特殊出生率を 1.5 まで上昇させることを目指します。<u>その過程として、平成 31 年（2019 年）には、平成 15 年以降 14,000 人台で推移してきた年間出生数を、15,000 人台にまで上昇させることを目指して数値目標を設定します。</u></p> <p>道外への転出と道外からの転入の差し引きを均衡させることを目指して、平成 31 年（2019 年）の数値目標を設定します。</p> <p>↓</p> <p><u>道外への転出と道外からの転入を均衡させることを目指します。その過程として、平成 31 年（2019 年）には、転出超過数を半減させる数値目標を設定します。</u></p>

第2章 基本目標

基本目標1 安定した雇用を生み出す

(1) 札幌市産業の競争力強化【分野別】

意見の概要	修正内容
ホテル建設の対策を行うなど、より多くの観光客を受け入れることができる環境をつくるべきではないか。	≪ P31 ≫ ●外国人観光客の受入体制整備 【施策内容】 客室グレードアップなど外国人富裕層等の受入環境を改善する宿泊施設の増改築を支援します。 ↓ <u>外国人富裕層等に向けた客室グレードアップといった宿泊施設の増改築等への支援や、急増する宿泊需要への対応策の検討など受入環境の改善に取り組みます。</u>

(2) 札幌市産業を支える基盤づくり【業種横断的】

意見の概要	修正内容
競争力を高める付加価値の創出として、IT企業の市場開拓に触れているが、札幌はコールセンターか、下流過程（詳細仕様作成とプログラミング、テスト）に限定されているので、いわば「IT出稼ぎ」ができるよう「都内の住居費と往復の交通費を自腹で払う」方々へ補助するなど、IT企業を支援する仕組みを考えてはどうか。	≪ P36 ≫ 【施策の追加】 ● <u>ITの積極的な活用による戦略的な地域活性化</u> <u>スマートフォンの普及やSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）の発展など、市民を取り巻く情報通信環境の急速な変化に対応し、ITの利活用を進めることで、様々な分野の産業振興や市民の暮らしの利便性向上を図る総合的な計画を策定します。</u>

(3) 地域が必要とする人材の育成・定着

意見の概要	修正内容
<p>息長く専門家で活躍する風土がある海外のように、60代前半でも第一線の仕事を続けられる環境を整えるため、雇用の機会を増やすなど、求人側の発想を変えるように、札幌市から働きかけてほしい。</p>	<p>≪ P39 ≫ また、就労の不安を軽減し、将来にわたり安心して活躍できる環境づくりに取り組みます。 ↓ <u>また、若者や女性の就労の不安を軽減し、将来にわたり安心して活躍できる環境づくりに取り組むとともに、高齢者が、豊富な経験や知識を生かしながら働き続け、あるいは、まちづくりの担い手となり、サービスを受ける側だけでなく、サービスを提供する側となって社会に貢献できるような環境を整えるなど、誰もが生涯現役として輝き続ける街の実現を目指します。</u></p>

第3章 未来創生アクション

意見の概要	修正内容
<p>札幌市の取組を知ることができた。これからも、障がい者や高齢者、妊婦などサポートの必要な人が安心して暮らせる街にしてほしい。</p>	<p>≪ P52 ≫ 将来を担う若者や子どもたちが、明るい未来を描くことができる「さっぽろ」の実現に向けて、 ↓ <u>札幌市では、まちづくりの指針である「札幌市まちづくり戦略ビジョン」において、目指すべき2つの都市像「北海道の未来を創造し、世界が憧れるまち」、「互いに手を携え、心豊かにつながる共生のまち」を掲げ、その実現に向けた取組を進めています。この目指すべき都市像を実現することで、「さっぽろ」のまちの魅力が高まり、将来を担う若者や子どもたちが、明るい未来を描くことができると考えています。</u> <u>この計画においても、「さっぽろ」の魅力を高めるため、</u></p>